



KAGAYAKU

かがやく

 題字：大版
西野一男さん

51

 生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー
 感動人生！ここに生きる元気な人間人びと


▲まちの先生講座（リモート講座の様子）



▲「フェスティバル四半世紀の回顧」の様子

 生涯学習をすすめる市民の会HP
 (いるまなびとサイト)
<https://irumanabito.net/>


いるまなびと



▲小田原市で視察研修



▲いるま生涯学習フェスティバル



▲生涯学習 いじばん

『生涯学習』という言葉調べてみると「人々が生涯にわたって、主体的に継続して行う学習。」と出てきます。筆者は、『生涯学習』とは人生を豊かにする学習のことと理解しています。市民の『生涯学習』を支援する市民団体がここ入間市にあります。それが入間市生涯学習をすすめる市民の会（通称 市民の会）です。実際にどのような活動をしているのでしょうか。市民の会ではまちの先生講座をはじめ、生涯学習 いじばんの管理や生涯学習情報の発信、生涯学習フェスティバルの主催、運営等を行っています。市民で構成されたボランティア組織で、事務局は市教育委員会社会教育課が担い、市民と市教育委員会の協働で様々な活動を行っています。まちの先生講座は令和2年で9年目を迎え、22人の先生に講座を実施していただきました。特に人気のあった講座は、「今流行りのリモート講座／会議って何、どうやるの？」でした。インターネット上のウェブ会議システムの使い方は、昨今の情勢の影響もあり市民の関心が高くなっているのだらうと思います。また、市内10か所に生涯学習 いじばんを設置し、様々な団体に生涯学習に関するポスターを貼る場所を提供しています。市民の会では定期的にいじばんをチェックし、管理を行っています。さらに年に1度、生涯学習先進地の都市へ赴き、視察研修をしています。令

■入間市生涯学習をすすめる市民の会（市民活動センター）
企画実現！アイデア勝負で学びを支援



和元年には、小田原市へ行き、小田原の生涯学習講座についてお話を伺い、意見交換をしました。

市民の会会長の渡部さんは、

「市民の会の魅力は、市民の学びを支援する新たな事業を皆で企画して実現できることです。私たちのアイデアを実現するには、様々な困難もあります。でもそれを乗り越えられた時の達成感が何とも言えません。これが私たちのやりがいです。」と語ります。

生涯学習フェスティバルは平成7年に第1回目を開催してから四半世紀が経過し、令和元年12月に第25回を迎えました。市内のサークルや団体が日頃の活動の成果を発表したり、意見交換をしたりする場となっています。令和2年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、生涯学習フェスティバルは中止とし、代わりにいるま生涯学習フェスティバル特別企画「フェスティバル四半世紀の回顧」を開催しました。このイベントはシンポジウム形式で実施し、市民の会のOB・OGの方々を中心にお集まりいただきました。市民の会の立ち上げに携わった方やフェスティバルの実行委員、過去の事務局の方がパネリストとなり、たくさんのお話が続けられました。

現在、市民の会の会員を募集中です。活動に興味のある方は、入間市教育委員会社会教育課までお問い合わせください。

■初めてのつるしびな（二本木公民館） 出来上がった時の喜びはひとしお



二本木公民館は、博物館アリットの近くにある平屋の現代的な外観の建物です。明るい日差しが皆さんと降り注ぐ広いロビーに入ると、すぐ横にある会議室から楽しそうな笑い声が聞こえてきました。公民館サークル『初めてのつるしびな』の皆さんが活動しています。

つるしびなは、様々な形の小さなお人形を作り、それを紐でつないでつるして飾るものです。ひとつひとつ丁寧に作られたお人形はかわいらしく色鮮やかで、目にした途端に思わず笑みがこぼれます。

材料となる色とりどりの布は、会員の皆さんが持ち寄ったり知り合いの方から譲っていただいたものです。つるしびなの作り方ですが、まず、



▲文化祭の展示

布を型紙に合わせ、裁断し針と糸で縫い合せていきます。縫い方は独特で返し縫いも細かく、表

側と裏側を

きちんと縫

わないとき

れいに出来

上がらない

ので、集中

力が必要と

なります。

縫い合わせ

たらその中

に綿をたくさん詰め込みます。出来

上がった人形がカチカチに硬くなる

ようにするため、鉗子^{かんし}を使って隅々

まできれいに詰めて形を整えます。

代表の大野さんは、「つるしびな

の魅力は、四季折々のお花や果物、

干支など好きなものを何でもお人形

にできることです。私達は毎回楽し

くおしゃべりをしながら活動してい

ます。手よりも口の方がよく動いて

いる人もいるかもしれません。大体

1回の活動で1つの作品が完成しま

すが、難しいものだとして2回、3回と

時間がかかります。でも、それだけ

時間をかけてやっと作品が完成した

時はとても嬉しい気持ちになりま

す。」とにこやかに話してくれまし

た。毎回、あつという間に時間が経

ってしまうそうです。



▲ひと針ひと針と縫い進んでいる様子

あいにく取材時は新型コロナウイルスの影響もあり、講師の岩田敏江^{いわたみえ}さんが毎回の活動に参加することが難しい状況にありました。講師が不在の際には、会員の皆さんが作りた作品をお互いに教え合いながら作っているそうです。「岩田先生は、優しくて穏やかな方です。でも、活動中は、きれいな作品を仕上げるために熱心に私たちを指導してください。時には、やり直し！と言われるかもしれません。時にもありますが、そのおかげでとても美しい作品が出来上がります。」という皆さん。講師のきめ細やかな指導のおかげで皆さんの腕前も上達しているようです。

サークル活動の魅力についてお尋ねすると、「家の中で一人で取り組める趣味もありますが、公民館に来て

みんなでお

え合ったり

ワイワイや

りながら一

緒に活動す

ることが楽

しみになっ

ています。」

「みんなと

好きなこ

とができて

ストレス解

消になりま

す。」と答



▲会員の皆さん

すてきな作品ばかりです▶



今年の干支▶

えてくださいました。集う喜び、作る喜び、完成した作品を愛でる喜びを仲間と共有しながら生き生きとした表情で活動に取り組んでいます。活動日は、毎月第一・三水曜日の13時～16時、会費は毎月千円です。二本木公民館のロビーには、他のサークルの様々な作品と並んでつるしびなの作品も展示してあります。興味を持たれた方は、足を運んでみてはいかがでしょうか。

■トーンチャイムの会 エーデルワイス（黒須公民館）
初めてでも素敵な音楽を奏でられます♪

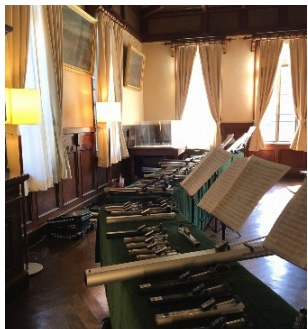
「まちの先生」リストの中に『トーンチャイム（ハンドベルと同種の楽器）』という言葉を見つけました。ハンドベルならイメージできるけど・・・トーンチャイムは何がどう違うのか、興味が湧いてきませんか？

17世紀頃にイギリスで生まれたハンドベルと共に使用するチャイムという楽器を、チャイムだけで独立させて音楽をつくるために、日本の楽器メーカーが開発したものがトーンチャイムです。5オクターブ程の広い音域があり、一曲を音のパズルのように、一人が2〜6本を手分けして担当し、10名程で演奏します。

落ち着いた音色は、音楽療法や学校などでも取り入れられ、最近ではこの楽器の良さがだいぶ広まっています。



▲ハンドベルとチャイム



▲トーンチャイム 低音から高音まで5オクターブあります



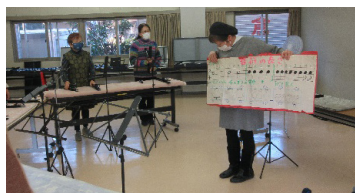
▲低音は大きいので両手で持ちます

百聞は一見に如かず、「まちの先生」千葉ひろみさんが講師をしているサークル『トーンチャイムの会エーデルワイス』におじゃましました。

2005年8月に発足し、現在は50〜80代まで9名で活動しています。千葉先生は、この楽器は人数が多い方が楽しめるので会員を大募集しています！公民館の文化祭に参加したり、レパートリーが増えたと近隣の福祉施設などで訪問演奏しています。演奏の最後はお客様にも楽器を配り、合図に従い全員で和音を奏でると、素晴らしい歌の伴奏になります、と話します。なんと最高80人で合奏したこともあり、参加者にはとても楽しまれ、喜ばれているそうです。皆で気持ちを合わせて音楽を奏でることに、とても喜びを感じると先生は語られました。



▲先生の掛け声とともに演奏



◀4/4拍子は・・・音の長さなどをわかりやすく説明

先生が身体全体を使って出すテンポに全員息を合わせて演奏します。「この曲は〇〇なイメージです」「間違ってても気にしなくていいです！楽しく！元気よく！」千葉先生の指導は楽譜が読めない人にも「ここは1と2とで2拍お休みします」などと具体的にわかりやすく、会員同士でも、3本以上の担当する音を持ち替えるコツなどを教え合ったりしています。それぞれの音がメロディに上手くはまった時は何とも言えない達成感を味わえます。月2回、2時間で数曲練習していますが、時間が経つのがあつという間です。

楽器は難しい、楽譜が読めないなど、初めてでも大丈夫！どなたでも



◀片手に1本ずつ両手で演奏



こんなふうに肩のところで音を止める技も！▶

すぐに一緒に楽しむことができるのがトーンチャイムの魅力です。

千葉先生は他にバリアフリートーンチャイム「ミックスジューズ」、オレンジカフェ「チャイムリトリート」などで活動していらっしゃいますが、昨年度はコロナ禍で3月までお休み。活動できたのは、この黒須公民館と、高倉公民館のチャレンジグループ「チャイム紡」の2つでした。トーンチャイムは、一人では演奏できない、気持ちを合わせ皆で一つになることを感じられる楽器です。今のような時代だからこそ、柔らかい癒しの音色、皆で音を重ねて音楽をつくる楽しさを是非体験してみては？

黒須公民館での活動は、毎月第2・4木曜日14時〜16時30分（夏時間）、月会費1500円です。

■古文書教室（産業文化センター） 先が見えない程奥深い古文書

古文書をみても、何が書いてあるのかさっぱりわからない。でも、読めたらちょっとかつこいいかも。そんな気持ちで、古文書教室に足を踏み入れました。月2回木曜日午後産業文化センターで、古文書教室は開催されています。

古文書についてご存知でしょうか。広辞苑で調べてみると、「過去の時代の史料となる古い文書。古文書学では差出人・受取人・用件・日付などを備えた公文書・私文書をいい、古記録と区別される。」と出てきます。現在では使われていない、旧字やくずし字などで書かれているので、教室ではこれを読むコツやルールなどを時代背景とともに学んでいるそうです。古文書教室講師の宇野藍子さんにお話を伺いました。「古文書は決して身近にあるものではありませんが、最も身近な古文書といえば郷土に残された文書ではないでしょうか。郷土に残された文書、すなわち古文書を読んでいると、地元の歴史が身近になり、日々の暮らしや近所の散歩などにも興行きがでて、精神的に豊かになれること、これが魅力の一つだと考えています。」

講座では、県内の農村に残された三行半（みくだりはん）と呼ばれる、江戸時代の離婚届を解説しました。その名の通り三行半で書かれている短い文章ですが、難しいくずし字で書かれているので、受講生・講師ともに苦戦しています。解説途中ですが、離縁すること、妻の再婚の自由を認めること、里に帰る妻への旅費などが記されています。また、隙間時間には受講生同士、お薦めのくずし字の辞典やテキスト、お手製の辞書などを見せてもらい、時に貸し借りなどして、学習方法そのものについても情報交換をしています。

受講されている方に感想を伺いました。「毎回、大変だけど少しずつわかることが古文書の魅力です。」「学んだことを生かして、ゆくゆくは博物館の史料を読みたいと思います。」「講座はとても楽しいです。書道をやっている、読めない文字があったのがきっかけで参加しています。」「研究書などを独自で調べ、事前学習をして取り組んでいます。古文書は先が見えない程奥深いです。」

昨年の緊急事態宣言中は通信講座となりましたが、個々が自宅にて前

向きに同じ課題に取り組み、一人も途中でやめずに教室を再開することができたそうです。「月2回、教室に通う事を張り合いに、日々の健康に留意し、免疫力を高め、仲間元気な姿を見せ、古文書という生涯学習を通して地域や仲間との繋がりを再認識しています。」と講師の宇野さんは語ります。

古文書教室では、随時生徒を募集しています。詳細は

【<https://komonjo.net/kyoshitu.html>】をご覧ください。



辞書を参照しながら古文書を解説！▶



◀教室全体の様子

◎生涯学習情報紙「かがやく」編集委員（ボランティア）・広告募集！！

「かがやく」は広報いるまとともに全戸配布する生涯学習情報紙です。編集委員として私たちと一緒に「かがやく」をつくってみませんか？また、各種宣伝などの広告掲載も募集しています。下記まで、お気軽にお問合せください。

